



## 委員 会 報 告



## 医療事故防止委員会

### ○設置目的

- 1) 医療事故防止委員会の開催
- 2) 報告されたインシデントについての原因分析、対策の検討、職員への周知
- 3) 医療安全に関する職員研修・指導
- 4) その他、医療安全に関する事項の協議

### ○委員構成

委員長 1 名、副委員長 1 名、院長、看護部長、事務長、各部署長等からなる 22 名

### ○2012 年度の活動報告

委員会では毎月、委員会の開催日前日までに報告されたインシデント事例一月分の中から重要事例を採り上げ、部署内での対応・対策を確認、協議し、対策が不十分であれば、あらためてその改善を依頼し、結果を翌月の委員会にて確認した。また、複数部署にかかわる事例では、対応・対策について協議・調整した。

2012 年度のインシデントの総報告数は 891 件であり、2011 年度の 1349 件から 34%減少した（2010 年度の 1866 件と比較すると 52%の減少）。報告部署別にみると、従来最も多かった 2 階病棟は、例年の 400～550 件／年から 223 件と半減し、全報告数に占める割合も 2011 年度の 37%から 25%へ減少した。リハビリテーション科は 238 件で 2008 年度から大きな変動はなく（過去 199～235 件／年）、相対的に全報告数に占める割合が 2011 年度の 17%から 27%へ増加した。リハビリテーション科とともに報告数が横ばい傾向にあるのは薬剤科で（71 件）、全報告数の 8%を占めていた。2 階病棟のほかに報告数の減少が顕著なのは手術室、3

階病棟、外来、医療事務課であった。月別の報告数の推移をみると（図 1）、8 月、9 月を境に大きく減少しているが、これに関与している部署は 2 階病棟と手術室であり、とくに 2 階病棟は 4 月から 7 月が 30～40 件／月であるのに対し、8 月は 16 件、以後 9 月から翌 3 月まで 3～15 件／月と激減していた。

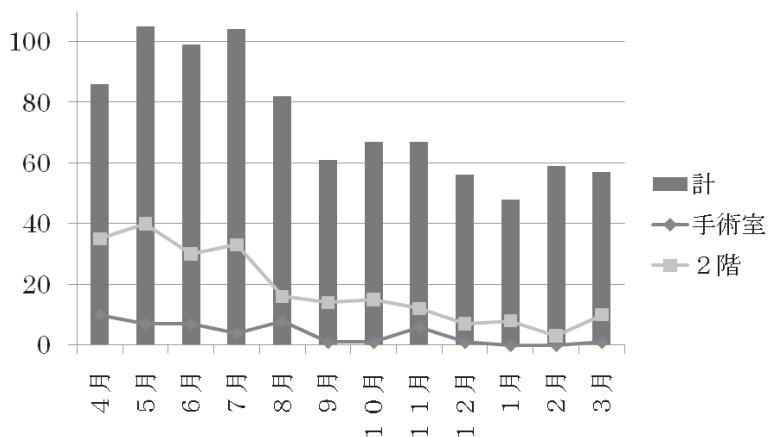


図 1 月別報告数



2012年度より事故種類を11項目に改めたが、これにより例年60～70%を占めていた「その他」は13%に減少した(図2)。最も多かったのは「療養上の世話」で30%であった。「針刺し」の事例はなかった。発生原因の項目には変更はなかったが、従来最も多かった「その他」は、2011年度の30%から15%に減少した。他の項目については例年の傾向と大きな相違はなかった。2012年度よりインシデントの影響度レベルを一部細分化し、「未然事例」の項目を追加したが、レベル4a以上はなく、レベル3bが1件、レベル3aが14件、レベル2が45件であった。

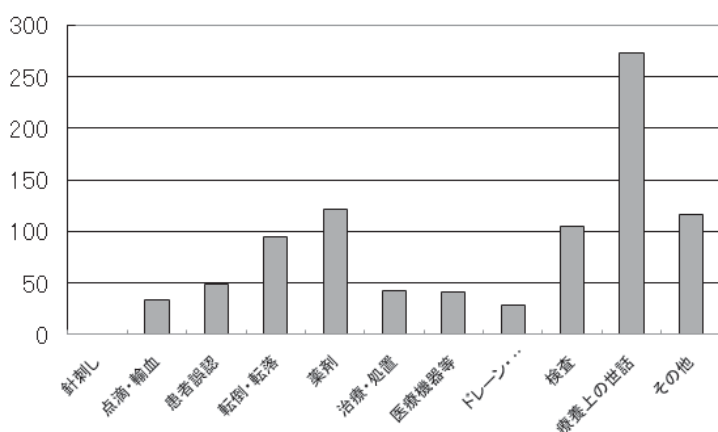


図2 事故種類

2012年度の目標として、2011年度の目標のうち達成不十分であったと思われる「委員は即時にインシデント報告を受け、遅滞なく、報告(入力)を行い、早急に対策を協議し、決定事項について部署内全職員へ周知を図ること」を掲げた。2011年度と比較して明らかな改善がみられたが、1週間以上委員による入力のない事例も少なからずあった。

教育研修については、以下の通り行われた。

- 1) 医療安全勉強会(症例検討会):「静脈血栓塞栓症4例」(7/27)
- 2) 医療安全勉強会:「自らに自ら気付く(体験学習を通して学ぶ)」(11/16)

### ○2013年度の重点目標

今後もインシデント報告システムを基に医療安全の向上を図るのであれば、正確・迅速な報告と適切・迅速な委員の対応・報告が重要であることから、2012年度と同様だが、より具体的な目標として以下を掲げる。

- ①報告は迅速に、分かりやすく記載(入力)すること
- ②迅速に委員に報告すること
- ③事故種類等正しく選択すること
- ④委員は迅速に詳細を分析し、報告すること

### ○2012年度の委員会開催日

2012/4/20、5/18、6/15、7/20、8/17、9/21、10/19、11/16、12/21、2013/1/18、2/15、3/15



## ○まとめ

インシデントの報告数がここ 2 年間で著しく減少してきた。安全対策および職員の安全意識の向上に伴いインシデントの発生が減少してきたためか、あるいは”安全文化の醸成”のため各部署こぞって報告するように、と発破を掛けることをしなくなったためか（前者であってほしい）。とくに 2 階病棟の報告数減少が著しい。2011 年度年報にて「インシデント総報告数の 37%を占める 2 階病棟は、個の改善によりインシデントを減らすことができるはず」と結論したが、それに応えていただけただけのものか。

例年、事故種類の 60～70%を占めていた「その他」は 13%に減少し、新たに設けた「療養上の世話」が 30%であった。因みに、日本医療機能評価機構の医療事故情報収集等事業：第 32 回報告書（平成 24 年 10 月～12 月）における事故概要の内訳でも「その他」10%、「療養上の世話」37%である。しかし、事故種類、影響度レベル等の選択が適切でない報告も未だ散見される。委員の方々には正確な入力をお願いしたい。



## 感染対策委員会

### ○設置目的

院内感染に関する事項、感染者の状況把握と対策に関する事項

院内感染の研究教育に関する事項、感染者の統計処理、感染性廃棄物処理に関する事項

### ○委員会構成

委員長、副委員長 3 名、委員 23 名

### ○2012 年度の活動報告

院内感染防止対策の実施 状況の把握 指導を行なう。

1. 早朝申し送り時、感染患者の報告を行い全職員に周知し感染に対する意識を高める。
2. 早朝申し送り時、感染の流行情報などを全職員に感染委員長より伝達し感染予防に努めた。
3. 一行為一手洗いをポスター掲示し職員、面会者への周知を図った。
4. グループウェアの掲示板にて毎月の委員会活動内容を報告し共有を図った。
5. マニュアルの改訂時、委員会で協議し、決定後、各部全職員へ周知を図った。
6. 勉強会
  - 1) 感染対策の基本について (6/29)  
大正富山医療薬品 上田晃博氏
  - 2) 院内感染起炎菌とその対策 (10/12)  
木下昭生院長
7. 職員教育  
新人職員 スタンダードプリコーション、針刺し事故予防対策
8. 職員感染予防対策
  - 1) インフルエンザワクチン接種 (11/29.30) 全職員対象
  - 2) B型ワクチン接種 看護師 3 名 検査技師 1 名
9. 抗菌薬状況報告  
抗菌薬使用状況の統計 (薬剤科)
10. サーベランスへの取り組み  
腰の術後のデータ用ワークシート活用 (固定術、徐圧術者)
11. 針刺し事故  
2012 年度 発生件数 0 件
12. 各病棟、各病室、汚物室にゴム手袋ホルダーの設置  
一処置手袋の交換を目的とする。
13. 院内ラウンド  
感染チェックリストを作成し毎週 1 回施行した、ラウンド結果を直ちに各部署フィードバックを行い結果を委員会で発表した。



### ○2013 年度重点目標

- 1) スタンダードプリコーションの周知徹底
- 2) 感染発生に適切かつ迅速に対応できる体制を取り感染防止に努める。

### ○2012 年度委員会開催日

4/11. 5/10. 6/14. 7/12. 8/9. 9/6. 10/11. 11/9. 12/13. 1/10. 2/15. 3/14

### ○まとめ

院内感染予防、一行為一手洗い 全職員に周知徹底を図っていたが、12月ノロウイルス院内感染が発生し面会制限、病棟閉鎖、リハビリ室閉鎖が余儀なくされた、感染対策委員会では臨時委員会を持ち、直ちに対策を練った、原因を確認すると共に全職員に再度、マニュアルに沿った処置が行える様指導を行なった。このことから、迅速な対応とスタンダードプリコーションの徹底、全職員が感染対策に対する個人の責任と意識を向上させるよう指導に努めて行きたいと思えます。



## 褥瘡・栄養対策委員会

### ○設置目的

褥瘡発生患者の原因・分析を行ない褥瘡発生に努め褥瘡発生予防を図る。

### ○委員構成

委員長、副委員長、委員 12 名

### ○2012 年度の活動報告

2012 年度の目標

「褥瘡発生患者の原因・分析を行ない褥瘡発生予防に努める」

- (1) 退院時に褥瘡の治癒状態を評価する。転帰時に治癒なのか転院なのか等を記載する
- (2) マニュアルに沿い報告書を作成
- (3) 委員会にて原因分析を行なう
- (4) 褥瘡予防具の検討

#### 活動

- (1) 週 1 回の褥創回診（火曜）
- (2) マニュアルに沿い報告書を作成
- (3) 委員会にて原因分析を行なう
- (4) 褥瘡予防具の検討

### ○2013 年度の重点目標

「褥瘡発生患者の原因・分析を行ない褥瘡発生予防に努める」

#### 具体策

- (1) 退院時に褥瘡の治癒状態を評価する（治癒か転院かも記載）
- (2) マニュアルに沿い報告書を作成、見直し、修正
- (3) 委員会にて原因分析を行なう（マット、処置、体位交換等）
- (4) 褥瘡予防具の検討（マット、クッション等）

### ○2012 年度委員会開催日

毎月第 2 火曜日

### ○まとめ

2012 年 4 月～2013 年 3 月までの当院褥創発生（持込発生・当院発生）件数と転帰（治癒・退院）件数のまとめを行ない、過去 3 年間とデータの比較を行なった。2012 年度は褥創発生件数 35 件。治癒患者 18 件。治癒率 51.42%であった。発生内訳として持込患者 18 件、院内発生 17 件という結果であった。今後も原因分析や新たな褥創予防具やアプローチ等の検討を行ない、褥創発生予防に努めていきたい。



## サービス向上委員会

### ○設置目的

医療法人明野中央病院における患者サービスに関する事項、サービス向上の為の業務改善、効率化、環境美化および職員の服装マナーに関する事項を行う事を目的とする。

### ○委員構成

委員長 1 名、副委員長 1 名、委員 1 4 名、 計 1 6 名

### ○2012 年度の活動報告

- ①『フィッシュ！』活動…活気ある職場づくり
- ②接遇勉強会… 3 月実施
- ③スマイルボードの設置
- ④投書箱『つぶやき BOX』の設置
- ⑤環境美化、および接遇・マナー改善活動
- ⑥外来・患者待ち時間調査

### ○2013 年度の重点目標

より活気ある職場環境への改善  
職員挨拶意識の向上を図る（挨拶運動の実施）  
病院内の環境・接遇・マナー・服装等のチェック（院内ラウンド）  
働きやすい職場環境への改善  
挨拶運動の実施  
患者サービスのさらなる向上

### ○2012 年度の委員会開催日

4/20 5/18 6/15 7/20 8/17 9/21 10/19 11/16 12/21 1/18 2/15 3/15

### ○まとめ

昨年度は活気ある職場づくりを実践にするために『フィッシュ！』（シアトルの魚市場で実際行われていた職場環境改善運動）の活動を行い、その一環としてスマイルボードを設置し職員の笑顔を増やしたり、つぶやきBOXを置いて職員や患者さんの生の意見を聞いて、職場環境向上のために努めました。3月に行われた接遇勉強会では、全職員がパネルディスカッションをして病院の接遇・マナーについて真剣に討論し、「明日から笑顔で、挨拶もキチンとします！」との声が多く挙がったことで『活気ある職場』に少しでも近づけたのではないかと思います。次年度もこれを継続し、更なる職場環境の改善と患者さんが過ごしやすい病院を目指して活動をしていきます。



## 教育委員会

### ○設置目的

当院における医療事故防止教育、感染症対策教育、医療倫理教育および職員の質向上に資する教育活動を行うことを目的とする

### ○委員構成 委員長 1名 副委員長 1名 委員 21名

### ○2012年度活動報告

月	日	研修テーマ	
6月	29日	感染対策	感染対策の基本 ～標準予防策、最近のトピックス～
7月	27日	医療安全	深部静脈血栓症の予防および治療
8月	24日	NST	NST活動と経腸栄養剤の使い分け
9月	7日	倫理	勝光寺 和尚 南慧昭氏講演会
10月	12日	感染対策	院内感染起炎菌とその対応
	27日	研究発表会	
11月	16日	医療安全	「自らに自ら気づく」体験学習
2月	1日	労働安全	メンタルヘルス 衛藤龍先生講演会
		医療ガス	酸素特性・取り扱い・注意点
3月	15日	サービス	接遇とは？

### ○2012年度委員会開催日 毎月第一金曜日

### ○2013年度重点目標

- ・部署を枠をこえた全職員対象の研修の企画を行う。
- ・病院理念に基づく医療の質の向上及び、職員の個々の能力のレベルアップをはかる。

### ○まとめ

2012年度は2011年度に引き続き“個人のスキルアップを目指し、全職種参加可能な教育研修”を目標に掲げた。感染の勉強会では手洗いの手技など何度も勉強会を行っている内容だが動画にてより分かりやすくしたり、また倫理の勉強会では倫理的講演にてキャリアのある勝光寺和尚の南慧昭氏の「出前歌説法」という音楽を取り入れた斬新な勉強会を行い、医療安全の勉強会では人は無意識に間違える事を体験学習を通して自ら気づく為の学習を行った。労働安全の勉強会ではメンタルヘルスについて衛藤病院院長・衛藤龍先生のお話を頂き、医療ガスの勉強会では室内でガスを噴出させ臨場感を出して、高圧ガスの威力を見たりした。サービスの勉強会では接遇とは何かをグループにて検討した。今後も専門性のある勉強会や全職種参加可能で理解しやすい勉強会をしていきたい。



## NST（栄養サポートチーム）

### ○設置目的

入院患者一人一人に必要な栄養の質及び量の摂取（投与）方法について提案し、健康を早く回復できるように支援するチーム医療

### ○委員構成

医師（西宮）管理栄養士（中村） 栄養士（小手川）薬剤師（尾中）作業療法士（安本）  
言語聴覚士（三好、寺岡）看護師（園田、平川、高橋、上妻、深井、赤星、中畑）

### ○2012年度の活動報告

- ・ 毎週火曜日 14:00～対象者のカンファレンス及び回診  
(対象者)・SGA評価(B・C)の患者 ・摂食嚥下障害の患者 ・褥瘡患者  
・アルブミン値3.0未満の患者 ・食事摂取量低下の患者 ・大幅な体重減少の患者 ・輸液のみ投与の患者 ・前回様子見の患者
- \*NST介入延べ患者数 1172名/年 介入患者数271名/年
- \*補助食品(高カロリージュース・高カロリーゼリー)摂取患者数 28名/年  
.....50%が改善傾向にあった
- \*NSTの勉強会実施(8/24)

### ○2013年度の重点目標

- ・ 対象患者の抽出をスムーズに確実にを行い、その患者の栄養状態を少しでもアップし早期退院や社会復帰を助ける
- ・ 対象患者に対して、適切な栄養管理が行なわれているかどうかを判断し、最もふさわしい栄養管理が行なえるように多職種で患者をみる
- ・ NST加算が算定できるようにスタッフを育成する
- ・

### ○2012年度の委員会の開催

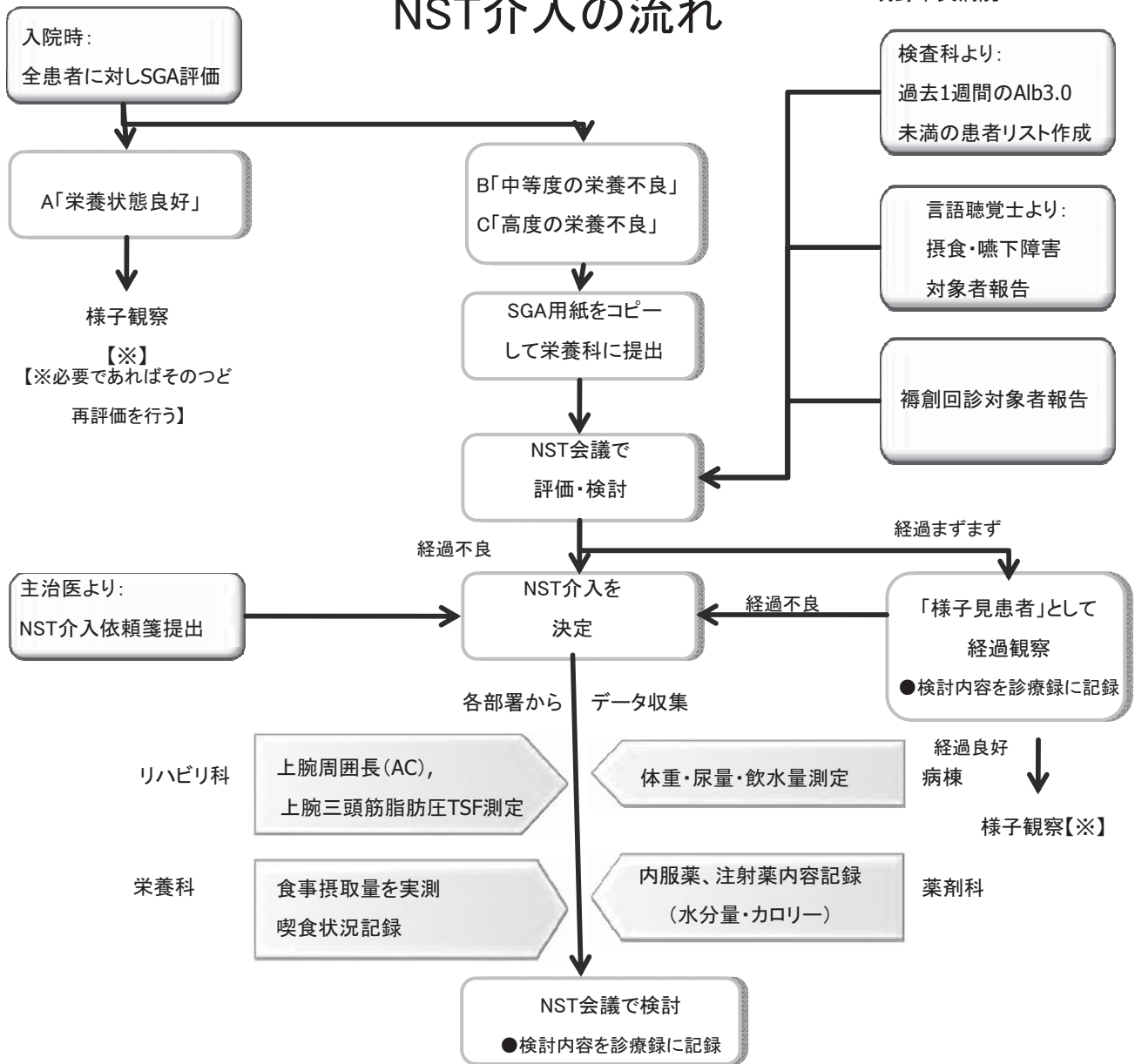
4/24 5/29 6/26 7/31 8/28 9/25 10/23 11/27 12/25 1/29 2/26 3/26

### ○まとめ

入院時、全患者に対して早期に栄養状態の把握を行い、栄養状態が不良の患者に対してNSTが介入し栄養状態の改善に努めたと思います

# NST介入の流れ

明野中央病院 NST 2008



## NST会議

毎週火曜日 14:00~

NSTメンバー

医師  
病棟看護師  
管理栄養士  
言語聴覚士  
薬剤師

対象

- ① NST介入患者
- ② 様子見の患者
- ③ 摂食・嚥下障害対象者
- ④ SGA評価B、Cの患者
- ⑤ 褥創回診対象者
- ⑥ 過去1週間のAlb3.0未滿の患者



## 糖尿病相談会

### ○設置目的

糖尿病の治療にあたり、本疾患に対する患者自身とその家族における基本的な知識の理解及び普及を高める。

### ○委員構成

医師（木下） 管理栄養士（中村） 薬剤師（尾中） 理学療法士（安部、岡次）  
検査技師（永沼） 看護師（工藤、玉井、佐藤、高司）

### ○2012年度の活動報告

#### ○ 第29回糖尿病相談会 テーマ 「カレーライスを試食」

開催日 2012年6月9日（土） 場所 管理棟第一会議室 参加人数： 7名

開催目的 人気メニューのカレーライスの試食会を開催、味付けや材料の工夫で低カロリーでも美味しく、かつボリューム感のある食事にする事が出来ることを体験してもらう。同時に食事療法への関心を深めてもらう。

#### ○ 第30回糖尿病相談会 テーマ 「カロリー、塩分、取りすぎていませんか？」

開催日 2012年11月17日（土） 場所 管理棟第一会議室 参加人数 4名

開催目的 実際に食べている1日の食事内容を見直し、食事療法への理解を深め家庭でも実践してもらう。

#### ○ 第31回糖尿病相談会 テーマ 「あなたに合った具体的な個別の減量計画」

開催日 2013年3月23日（土） 場所 管理棟第一会議室 参加人数 7名

開催目的 適正体重を維持し、血糖コントロールの正常化を目指す。あえて運動でなくても、日常生活活動でエネルギー消費を目指してもらう。

\* 糖尿病透析予防管理料の指導を開始・・・2名の患者に対して実施中（3回/年）

\* HbA1cの国際基準化に伴う表記法の伝達（パンフレット使用）

### ○2013年度の重点目標

- 糖尿病に対する基礎知識の理解及び普及
- 相談会の年3回以上の開催
- 糖尿病透析予防管理指導の対象患者を増やす

### ○2012年度の委員会開催日

4/2 5/7 5/28 6/15 7/2 8/6 9/10 10/1 10/15 11/12 12/1 1/28

### ○まとめ

2012年度は糖尿病患者の教育入院は数件あったが、糖尿病教育入院のパスの使用はなかった。

2013年度は糖尿病相談会開催を3回/年実施を目標にし、地域の糖尿病患者さんの治療の支援をしたいと思えます。



## 親和会（厚生会）

### ○設置目的

親和会は会員同士の親睦の向上と福祉の充実を図ると共に、明野中央病院の発展に寄与する事を目的とする。

### ○親和会スタッフ構成

- ・会長 1名
- ・副会長 1名
- ・会計 1名
- ・会計監査 1名
- ・役員 9名

### ○役員改選

役員の任期は毎年4月より翌年3月末までの1年間とする。

### ○総会

- ・総会は通常総会と臨時総会の2種類とする。
- ・通常総会は、毎年3月末に病院総会に合わせて行われる。
- ・臨時総会は、会長が必要を認めたとき、または会員3分の1以上の要求があった時、随時開催する。
- ・議長は会長が行う。
- ・総会は会員の過半数をもって成立する。ただし、委任状出席を認めるとする。

### ○会計

- ・収入 ①会費 ②寄付金 ③その他（必要に応じ臨時会費を徴収することもある。）
- ・支出 ①職員旅行 ②レクリエーション活動 ③忘年会 ④慶弔見舞金 ⑤その他
- ・会計年度は毎年4月1日から翌年3月31日までとする。
- ・会計報告は毎年3月の通常総会にて行う。



## ○2012 年度活動報告

### ①院内ボウリング大会を開催

開催日 : 2012 年 6 月 15 日

開催場所 : O B S ボール

参加人数 : 61 名

### ②職員旅行を実施

実施日 : 2012 年 9 月 14 日～9 月 16 日 (2 泊 3 日)

2012 年 9 月 28 日～9 月 30 日 (2 泊 3 日)

旅行先 : 東京 (東京築地市場、都内観光、東京ディズニーランド、東京スカイツリー)

参加人数 : 47 名

### ③忘年会を開催

開催日 : 2012 年 12 月 7 日

開催場所 : 全日空オアシスタワー

参加人数 : 123 名



スカイツリーにて (職員旅行)



屋形船にて (職員旅行)

# 新聞報道

### 看護週間の行事

▽明野中央病院(大分市明野東  
木下昭生院長) 明野中学校3年生




11人は12日、看護師の仕事体験した。(写真)

生徒はナース服に身を包み、互いの血圧や酸素濃度を測定。術着に着替えて手術室の見学などを行った。入院患者のケア体験では、看護師から指導を受けながら丁寧に手浴や足浴などを行



い、患者からの「きれいになったよ」の声掛けに笑顔を見せた。

「将来は医療関係の仕事をしたいので、少しでも知識が身に付けばと思い、参加した」。安部菜々瀬さん(14)▽同左▽は「患者さんの話しをよく聞きながらケアすることが大切だと分かった」と話した。

大分合同新聞

### 明野中央病院 1日看護師体験を実施

5月12日(土)、明人が病院で働いてい  
野中央病院にて1日るかも見ていただき  
看護師体験が行われた。たいと挨拶、生徒一  
明野中学校3年生11人ひとり一日看護  
名が参加。はじめに師としての委任状を  
同病院の木下昭生院 手渡ししていた。  
長が、病院には医師 中学校では2年生  
や看護し以外にも多 で職場体験を行うが、  
くの方が病院に関わ 今回の1日看護師体  
ています。どんな 験は毎年3年生を対  
象に実施する  
もので、将来 実際に入院患者さん  
看護師など医 車椅子に乗ってみたい  
療関係の職に 患者さんに「湯加減  
就きたいと考 はどうですか？」な  
えている生徒 ど優しく笑顔で声  
が毎年多く参 掛け患者さんも、子  
加している。 供たちの一生懸命な  
今年参加した 優しさに笑顔で応え  
生徒たちも、ていた。

将来は医療関係の後、病院食を係に従事した 験し午後には、ポラ  
いと考えてお ンティアの皆さんと  
り普段中々見 の交流、手術室見学  
ることが出来 も行われた。



大分団地新聞



### 明野中央病院で 明野中学三年生一日看護体験学習

明野中央病院(木下昭生院長)では、ナイチンゲール誕生一〇〇年前の五月十二日、明野中学三年生十一名が参加して「一日看護師体験学習」を行なった。

明野中央病院



木下昭生院長

一日看護体験学習では、木下昭生院長が「病院は医者や看護師だけではなく、いろんな人々が働いています。一日看護師体験学習で、いろんな事を体験をしながら頑張ってください」と挨拶し、木下昭生院長から委任状の伝達式のと、患者さんの血圧測定や足浴、シーツ交換を行なった。またリハビリテーション室では、リ



丁寧に洗ってあげて  
足さす

参加した生徒さん達は、「病院内ではいろんな役割の仕事があり地域医療に大切な事が良くわかりました」と話し、「一日看護体験学習に参加した生徒さんは、

ハビリ体験と手術室も見学した。

「将来看護師や医療機関で働きたいと思いついて参加しました」と話していた。



一日看護師体験

#### 一日看護体験学習に 参加した生徒

- |       |        |        |       |       |
|-------|--------|--------|-------|-------|
| 高橋 ゆい | 漢 千奈美  | 安部 奈々瀬 | 平迫 京香 | 佐藤 亜実 |
| 管 麻由  | 後藤 菜つみ | 武津 咲   | 玉田 玲奈 | 中園 亜美 |
|       | 詫摩 友梨  |        |       |       |

明野タイムズ

### 明野中学校3年生 明野中央病院で職場体験学習



緊張しながら血圧測定

明野中央病院(木下昭生院長)で、明野中学校3年生6名が7月4日、職場体験学習を行なった。

職場体験学習では、木下昭生院長が「病院は医師、看護師、栄養士、薬剤士等沢山の方々が患者さんのお世話をしています。今日一日いろんな体験しながら勉強をしてください」と話し、実際に血圧測定や入院患者さんの手足を洗ったり、病棟で自転車の様に足でこぐ車椅子を見学し、リハビリテーションでは手足の回復

に向けてのリハビリ等が行われ、大変貴重な経験をしました。  
ある女生徒は、「病院に少し興味がありました。今日の職場体験学習で大変良い体験をしました。これから看護師を目指して勉強をします」と話していました。

明野タイムズ





「ありがとう」に  
看護の喜び実感  
大分・明野中央病院  
中学生が職場体験  
大分市の明野中央病  
院で13日、市立大東中  
2年6人の職場体験が  
始まった。シーツ交換  
などで「ありがとう」

と患者が  
声を掛け、未来  
の看護師  
も緊張が  
ほぐれた  
様子だっ  
た。  
手際よ  
く患者の  
足を洗っ  
た薬師寺  
大瑚さん  
(13)は  
「思った  
より大  
変。将来  
は看護師  
か外科医  
になりたい  
」。小  
児科医を  
目指す川  
野萌香さ  
ん(14)も  
座学と違  
い「緊張する」。血圧  
測定法を尋ねた岩淵麗  
可さん(13)は「看護師



血糖値の測り方を教わる中学生

毎日新聞

の仕事を大変だが患者  
さんとの触れ合いがい  
いと笑顔だった。

同院によると、近年  
は男子生徒の職場体験  
も増えているという。

明野校区公民館主催  
女性講座・高齢者大学合同公開講演会  
6月5日(火)、あえ「肩・肘・腰・膝」  
へのアクロスホールの痛み予防と対策」  
にて明野校区公民館と題した講演会  
主催の平成24年度第1回女性講座・高齢  
者大学合同公開講演会 集まった。  
中村先生は、  
講師に外科医で明野中央病院副院長の  
中村英次郎先生を迎え、写真やイラスト  
を用いながら体の節々の痛みの



原因やその予防対策  
の運動方法を紹介。  
途中には、注射で使  
用するヒアルロン酸  
の粘り気を確かめる  
実験も行われ、参加  
者が分かりやすく体  
の仕組みを学ぶこと  
が出来た。

大分団地新聞



**大東中学生  
明野中央病院で  
職場体験学習**



明野中央病院(木下昭生院長)で大東中学生6名が職場体験学習を行った。職場体験学習では、血圧の計り方や、病室で患者さんの手足を洗ったり、リハビリテーション室では、いろいろなリハビリ器具を使って手足の運動回復体験をした。職場体験学習に参加した生徒は、「看護師さん達は患者さんに何時でも笑顔で患者さんのお世話をしている事が良く分かりました。これからは看護師を目指して勉強したいです」と話していた。

明野タイムズ

**明野中央病院健康セミナー  
健康チェック体験フェアを開催**



11月11日(日)、あけのアクロスタウン3階アクロスホールにて、恒例となりました「明野中央病院健康セミナー」を開催しました。

今年のテーマは「健康チェック体験フェア」としまして、会場内に血圧測定や骨密度測定、肺活量測定や体力測定などのブースを設け、参加者の方々に実際にそれぞれの検査を体験していただきました。

当日は、まず始めに木下院長が『自分で守ろう、自分の健康』と題して講演を行い、特に血圧を測ることの大切さと正しい

測り方などについて説明しました。続いて、中村副院長が『首、肩、腰、膝、お元気ですか?』と題して講演を行い、腰痛や膝痛の予防と対策などについて説明しました。二人の講演の後はいよいよ健康チェック体験会に入り、400名を超える参加者の方々がそれぞれの体験ブースに列を作り、気になる部分の健康チェックを行いました。

「相談コーナー」では、当院医師が参加者からの質問や相談に対応し、「救急蘇生コーナー」では、最新機能を搭載した人形を使った心臓マッサージやAEDの体験も行われました。体脂肪、内臓脂肪測定、肺年齢や血管年齢測定などおなじみの検査の他、超音波検査体験、栄養・カロリー測定、脳年齢測定などのブースもあり、参加者は検査結果を熱心に確認していました。さまざまな健康チェック体験によって、参加者の皆様の健康維持、疾病予防に少しでもお役に立てたのであればうれしく思います。

写真 救急蘇生の体験

明野タイムズ



「初笑い」で元気に  
大分市の明野中央  
病院で「新春寄席」

明野中央病院（木下昭生院長）の「新春寄席」が12日、大分市明野東の同病院であった。新年から笑い、元気になってもらおうと5年前から開いており、入院患者や地域住民ら約70人が集まった。

県南落語組合大分支部

（中山和充支部長）のメンバー3人が出演し、「宗論」「金明竹」「猫の皿」の演目を軽妙な語り口で披露。ユーモアを交えた雑談もあり、拍手と笑いを誘っていた。

患者の古谷秀士さん（69）  
「同市森町」は「覚えるだけでも大変な落語を上手に演じていて面白かった。たくさん笑えて、楽しい時間を過ごすことができました」と話した。

軽妙な語り口で笑いを誘う

大分合同新聞



～明野中央病院新春寄席～  
1月12日（土）明野中央病院（木下昭生院長）にて新春寄席を開催。県南落語組合大分支部の皆さんによる落語3席が口演され、観覧者はとんちの利いた話に笑い楽しい時間を過ごした。

大分団地新聞

明野中央病院  
新春落語寄席  
を開催

明野中央病院（木下昭生院長）は、1月13日県南落語組合寿限無（大分支部）の3名が来院し、新春落語寄席が行われた。

3名の方は、「猫の皿」、「金明竹」、「宗論」の落語を披露した。会場には入院患者さんや病院の近くの方々が来院し、「正月番組でテレビで見ましたが、実際に目の前で落語を聞いて大変面白かったです。笑うのは、身体に大変良いとお聞きしましたので、これからもテレビやラジオで落語を聞きながら楽しい一時を過ごす事にします」と話していた。

明野タイムズ



## 新入職員 1年間を振り返って

### ○リハビリテーション科 理学療法士 岡元麻由子

明野中央病院に入職し、早いもので一年が経ちました。ついこの前のことであるにもかかわらず、理学療法士になりたい、と一念発起し勉強に励んだ日々を懐かしく思います。働き始めた当初は右も左もわからず、業務を覚えることに精一杯で、患者さんに迷惑をかけることも多々ありました。自分のふがいなさに落胆し、なぜできないのかと思い悩むこともありました。臨床の場で働くということは机上の学習とは異なり、相手がいることの難しさを、働き始めて2年目となった今も日々痛感しているところです。

しかし、それでも理学療法士としてこれからも頑張っていきたいと思えたのは、やはり、忙しい中、嫌な顔ひとつせず丁寧に指導して下さった先輩方の存在があったからこそです。本当に感謝しています。

ようやく日々の業務に慣れてきましたが、初心を忘れることなく、今後は、より専門性の高いリハビリテーションを患者さんに提供できるよう取り組んでいきたいと思えます。

### ○看護部2階病棟 看護師 大田瑞希

入職当初は先輩ナースについて回り、入院アナムネから処置・検査、また基本となる看護技術を当院でのマニュアルに沿って指導していただきました。その後、整形・内科チームを持つようになりました。チームを持つようになり、より疾患についての勉強が大事だと学び、同じ疾患でもそれぞれ患者さんによって観察項目も違い、検温に時間がかかることもありますが、先輩ナースからの適切な指導を受け、迅速かつ丁寧に業務を行うことを目標に日々業務に励むことができています。1年経つ前に、仕事の失敗をいくつかしてしまい不安になった時がありましたが、その時はプリセプターや先輩ナースが声をかけてくれ、話を聞いていただき気持ちを切り替えることができました。1年経ち一人で出来るところも増えてきましたが、未だ指導していただくことも多々あります。今後は夜勤にも入りたいので、指導して頂いたことを振り返り、もっと技術面・看護面の向上を目指し、臨機応変に対応できるよう頑張りたいと思えます。

## 入職5年を振り返って

### ○リハビリテーション科 主任 言語聴覚士 三好昌子

平成19年当院リハビリテーション科に入職して早5年の歳月が経ちました。入職した当初と比べスタッフ数も2倍になり、リハビリテーション科の組織拡大を実感しております。また入職とともに言語聴覚療法部門の新規開設並びに摂食嚥下リハビリテーションに関する面では多職種の方々にご協力を頂き(今現在もご協力頂いている事に)感謝申し上げます。また平成24年6月より2名体制で言語聴覚療法・摂食機能療法のリハサービス提供が実現しました。一人では成し得なかった業務をこれからは二人三脚で取り組み、当院における言語聴覚療法の発展に努めていきたいと思っております。

今後も『姿の見える言語聴覚士(ST)』として、病棟やリハビリ室での患者さんやご家族との関わりを多職種の方に知って頂き、多方面に渡って『言語聴覚士』の社会的認知度の向上並びに社会貢献に反映できるよう今後更なる努力をしていきたいと考えております。



#### ○リハビリテーション科 副主任 作業療法士 村上友美

明野中央病院に入社して早くも5年が過ぎました。新人の頃は、作業療法士としての知識や技術、業務内容など覚える事ばかりで、日々奮闘していた事を覚えています。当初は外来・急性期・回復期を受け持っており、整形外科や脳血管などいろんな疾患の患者さんを担当させて頂いていました。掛け持つということはとても大変でしたが、数多くの患者さんと接することが出来たことは、とても良い経験だったと感じています。患者さんを通して、人として関わることの難しさ、個人個人にあったリハビリの提供など、現在でも日々悩みながら関わらせて頂いております。大変だと感じることもありますが、回復し元気になって退院する時の患者さんの「ありがとう」の言葉や、退院してから笑顔で会いに来てくれた時は、作業療法士として働く上でやりがいを感じる瞬間です。この言葉や患者さんの笑顔を一回でも多く聞けるように、見られるように満足いくリハビリを提供していきたいと思います。

#### ○リハビリテーション科 理学療法士 大嶋梨保

早いもので入職して5年が経ちました。入職当初、右も左も分からない状態でしたがたくさんのスタッフに支えられ、あっという間に5年を迎えたように思います。私はこの5年間で急性期病棟と回復期病棟の両方を経験させていただき、理学療法士としての知識や技術だけでなく、人生の大先輩でもある患者さんにたくさんのことを教わりました。私達の仕事は相手が機械ではなく人対人です。患者さんの声に耳を傾ける姿勢を忘れず今後も業務に取り組んでいきたいと思います。また、今後この病院がより良くなるためにも新人スタッフの力が必要になってくると考えます。そういった意味でも今後新人教育にも力を入れてより良い医療が提供できるよう頑張っていきたいと思います。

#### ○看護部 2階病棟 副師長 看護師 前原 英子

子育てを理由に看護師を離職していた私の元に、当院に勤務していた友人から「うちの病院に復帰しないか」と一本の電話がありました。当時の私は、看護師に復帰するならば「自宅から近い明野中央病院がいいな」と考えていましたが、ブランクが復帰への妨げとなり、躊躇してもしました。しかし、友人の「大丈夫よ、身体が覚えるしすぐ慣れるよ」の一言と、当院には前の職場で一緒に働いたことのある方が多くいましたので、不安はありましたが入職をしました。入職当初はパート勤務で入り、外来に1年余り所属していました。以前は外科系にいたのですが、医療の進歩にやはりブランクを感じ、書店で新しい本を購入したりネットで勉強したり、過去の経験を少しずつ思い出しながら、何とか余裕が持てるまでになりました。その後3病棟へ半年ほど所属し、正職員となって2病棟配属となりました。2年前より私は看護部の教育委員を任され、院内教育の企画・運営に携わるようになりました。今年度看護部では、看護師の専門的知識向上の為に部署毎で毎月勉強会を開催したり、クリニカルラダーシステム（臨床看護実践能力習熟段階制）を作成・導入したり、プリセプターシップの強化により新入職員の育成など取り込む予定です。患者さんへ安全かつ安楽な看護を提供するためには看護師の質を高める必要があると思います。医療職は生涯学習であり、私自身まだまだ学ぶべき事が沢山残っています。教育委員の活動や臨床の場での経験を通して更に視野を広げ成長出来るように、今後も頑張っていきたいと思っています。



#### ○看護部 2階病棟 看護師 羽田野みきよ

明野中央病院に入職して5年がたちました。以前勤務していた病院とは全く違う環境の中で、初めて経験する疾患・処置ばかりで戸惑うことも多くありましたが、先輩スタッフや患者さんに支えられ忙しくも充実した5年間であつというまに過ぎた気がします。看護をしていく中で心がけていることは、患者さんと昼夜を問わず一番多く接する看護師であるからこそ、患者さんにとってつらいこと・悩んでいることはもちろん、何気ない日常の会話でも一番話しかけやすい相手でいたいということです。患者さんに多くの話をしてもらうには信頼関係が必要で、限られた時間の中で十分な信頼関係を築くことは簡単ではありません。患者さん一人一人としっかりと向き合い、患者さんにとって一番重要なことは何かを考え、毎日の看護に携わっていきたいと思います。また何年経っても看護師になったばかりの頃のドキドキした気持ちや、向上心は忘れずに持ち続けたいと思います。

#### ○看護部 3階病棟 看護師 日和佐律子

平成19年11月に入職し、2階病棟に配属されました。私にとって「整形外科」という分野は初めてであり分からないことばかりですが、先輩方の温かい指導のもと、少しずつではありましたが分かるようになりました。8ヶ月後、3階病棟の配属になりました。3階病棟は回復期リハビリ病棟であり、患者さんの声を聴きながら、ADL拡大を促すような看護を行わなければなりません。しかし、実際の勤務では、時間に追われ、患者さんのさまざまな行為に手を出してしまうこともしばしばあります。セラピストより「それは患者さんができます」と言われ、ケアについて考えさせられました。限られた人数での看護、その中での看護の在り方など看護の難しさを日々痛感しています。今後も患者さんにより良いケアができるよう新しく変わる医療を学びながら日々精進していきたいと思います。

#### ○看護部手術室 看護補助者 佐藤由香利

平成19年に当院に入職しました。当時の3階病棟は急性期病棟でしたが、まもなく回復期リハビリテーション病棟となり、機能回復（在宅復帰）を目標に看護助手も看護師、リハビリスタッフと共に目標に向かって取り組んできました。動けなかった患者さんやOP後の患者さんが歩けるようになり笑顔で家に帰っていく姿を見ると、人間の持つ力、回復力に感動しました。今は、手術室（中材）で手術器械や病棟から出る器材などの洗浄、滅菌、手術器械の準備をしています。清潔と完全滅菌という保管、管理を行う大切な部署です。患者さんとのかわりはあまりありませんが、とてもやりがいのある仕事です。今後も、中材の仕事をプロフェッショナルを目指して頑張っていきたいと思います。



### ○事務部 総務課長 安部敬治

平成19年に入職して早くも5年が経ちました。大学を出てコンピュータ関係のSE（システムエンジニア）の仕事、その後、手芸関係の営業をした後、県議会議員の事務所で働いている時に縁あって当院の事務を紹介して頂きました。病院での勤務も初めてなら事務の仕事も初めてで、どうなるかとは思いましたがどうにか5年間病院のお役に立てているのではないかと自負しております。これからも縁の下の力持ちとして患者さんのため、職員のために頑張っていきたいと思います。学生の時からしているテニスもしばらくお休みをしていましたが、昨年、院内の4人の有志で始めたテニス同好会も今では10名を超える参加者になり、とても良い気分転換になっています。

## 入職10年を振り返って


### ○薬剤科 科長 薬剤師 尾中陽子

2002年4月に働き始めた日から、この病院には新鮮な驚きがたくさんありました。まず、最初の日から早朝回診に驚き、外来、病棟のみならず様々な部署との交流があることに驚き、毎日副院長から「慣れたか?」と聞かれることにも驚き、そして、毎日出してくれる食事の味にも驚き(ここなら入院してもいいなと思うくらい)。今ではこれらのことが日常になっていることがとても幸せだと思うし、この幸せを支えてくれているのは一緒に15周年を迎えた院長先生のおかげだと思っています。

また5年後にも一緒に写真を撮りたいです。よろしくお願いします。



木下院長が「いいね!」  
と言っています。



医療法人社団唱和会 明野中央病院

---

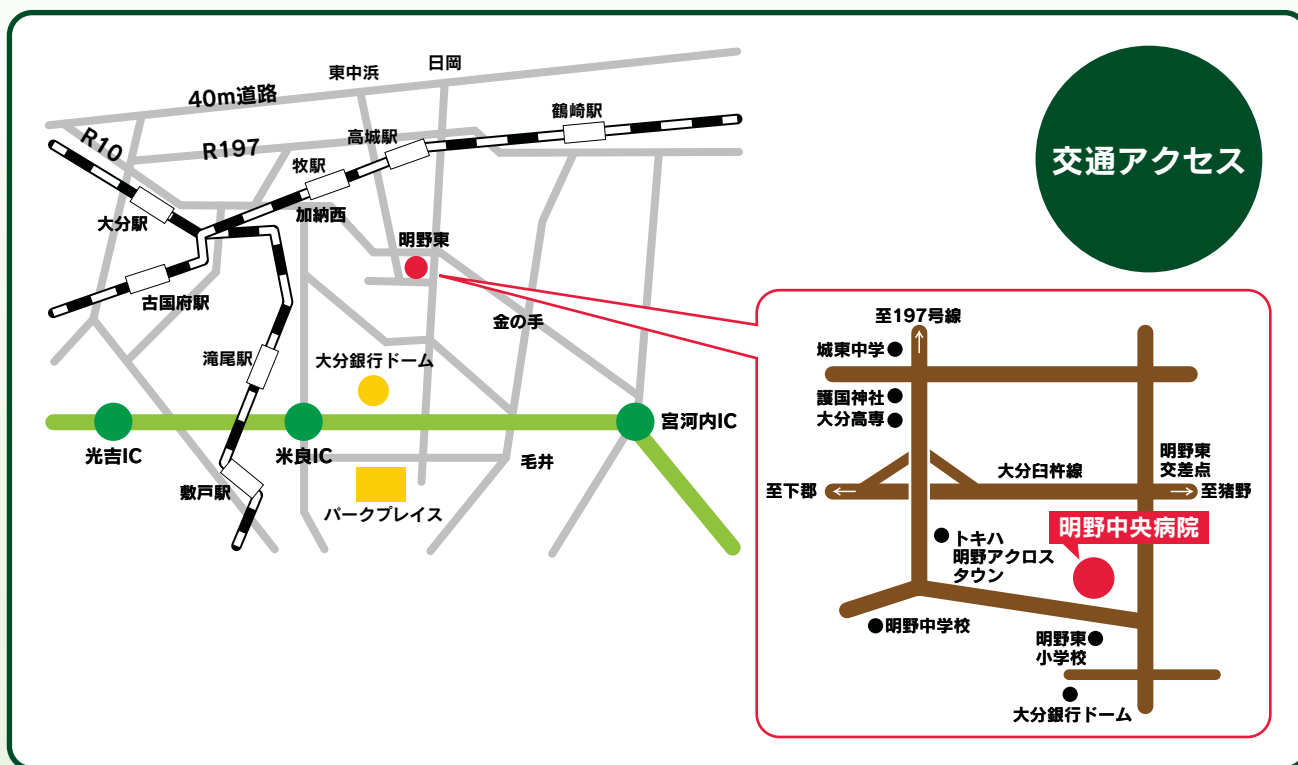
事業報告書（2012年度）

2013年8月1日発行

発行／医療法人社団唱和会 明野中央病院

編集／医療法人社団唱和会 明野中央病院 事務部総務課





医療法人社団唱和会 **明野中央病院**

〒870-0161 大分県大分市明野東2丁目7番33号

TEL (097)558-3211 FAX (097)558-3709

E-mail: akenohp@fat.coara.or.jp

http://www.akenohp.jp